

平成31年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

教育目標 「自ら未来を切り拓く 心豊かでたくましい人間を育てる」 ～希望進路の実現を支援する学校づくりをめざして～

教育方針 1 学力の充実を図り、希望進路を実現させる 2 学校行事・部活動を充実させる 3 基本的な生活習慣を確立させる 4 安心できる学校生活を確立させる

2 中期的目標

1 生徒が夢と志を抱き、希望する進路を実現させるための進路指導の確立

(1) キャリア教育を充実させ、生きる意味、働く意味、学ぶ意味を考えさせ、具体的な夢を描かせる。

ア 3年間の進路指導計画を策定し、生徒が主体的に進路実現できるよう指導する。

(2) 将来の夢への入り口となる進学をめざすために、チャレンジする意欲を醸成し、粘り強く取り組む力を養う。

ア 「行ける大学」ではなく「行きたい大学」への進学をめざす。

(3) 「夢のとびらプロジェクト～2nd」を推進し、個別対応を強化する。

2 「確かな学力」の育成とそのための教員の授業力の向上

(1) 生徒に自己の進路実現と学力の関連性を意識させ、学習意欲を向上させる。

ア 志望する大学等へ進学するために必要な学力を意識させ、授業第一主義を確立するとともに、家庭や放課後での学習（自習力）を充実させる。

イ 自分の意見・考えをまとめる力、自分を表現し伝える力を育成する。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善に取り組む。

ア 大学入試改革に対応するため、ICTを活用した効果的・効率的な授業の推進を図る。

イ 他校での先進事例の視察や、教育センター並びに教育産業が主催する研修・講演会等への積極的な参加により、新たな指導について研究する。

(3) 資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価の工夫を図る。

ア 全ての教科で観点別評価による「指導と評価の年間計画（シラバス）」を作成する。

3 心豊かでたくましい人間性の育成

(1) 他者理解と多様性を尊重し、鋭い人権感覚を育成する。

ア 生徒が主体的に学べるような感性に訴えるプログラムを提供する。イ 学校行事・部活動・ボランティア活動・インターンシップ等への積極的な参加を図る。

ウ 海外研修と海外からの留学生の招聘を実施し、国際交流を通じて多様な文化を体験し国際的な視野を育成する。

(2) 情報リテラシー及び情報モラルを育成する。

ア インターネットを効果的で正しい使用ができるように、専門家による指導を含めた具体的な指導を継続させる。

(3) 生徒が安心できる学校生活を確保し、基本的な生活習慣の定着・改善を図るとともに、規範意識を向上させる。

ア 教員が寄り添いの姿勢で生徒に接し、生徒が相談しやすい指導体制を充実させる。

イ 生徒の基本的な生活習慣（あいさつ、時間、身だしなみ、交通マナー、美化活動及び授業態度等）の改善・定着に取り組む。

4 地域に開かれた学校づくりと魅力ある学校づくり

(1) 本校の教育活動の内容について積極的に情報を発信し、地域に活動の理解を広げるとともに、魅力ある学校となる。

ア 学校説明会の実施方法の工夫として在校生による中学校訪問を定着させ、生徒の成長を発信する。

イ HPの充実を図り、魅力を発信する。

(2) 地域との交流・連携を推進することにより、学校を活性化し、学校への信頼を高める。

ア 授業や部活動、生徒会活動などとおして、地域の活動等に積極的に参加し、小学校、保育所など各機関・団体との交流・連携を推進する。

イ 裏山を活用した環境教育を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する。 ウ 地域と連携した防災教育の充実を図る。

5 校務の効率化

(1) 校務処理システムを積極的に活用することにより、効率的な指導を推進する。(2) 部活動指導を効率的に行い、長時間勤務の縮減を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業はわかりやすい」（生徒）の肯定が66.1→69.0で毎年伸びている。授業研究週間の取組や全国の授業事例閲覧が可能なサイトを導入するなど発信と分析を行っている成果ともいえる。しかしまだまだ教員の向上意識をバックアップして、授業研究を進めいく必要がある。 ・「発表する機会がある」（生徒）では65.5%→71.0%と大幅に伸びており、アウトプットする授業や機会を充実させていることがわかる。 ・進路情報の提供は「情報は提供されている」（生徒）において肯定が86.3%→88.5%で過去最高となった。3年生だけではなく1、2年生においても高い。しかし、まだまだガイダンスは充実させることで進学実績も上がると考えている。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校へ行くのが楽しい」（生徒）では78.4%→82.7%と過去最高。安心確保を進めることができていると判断できる。 ・相談機能においては「相談にのってくれる先生がいる」（生徒）で67.2%→70.2%と過去最高。日常から啓発している『寄り添い』が進んでいると判断できる。今後も注力。 ・部活動関係の指標においてはすべてで肯定的な割合が伸びており、教員全体で部活動を盛り上げようとしていることが伝わっているのではないかと。多忙の原因ともなるが、生徒のやりがいでもあるのであきらめずに注力。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域交流では「交流機会がある」（生徒）において46.8%→49.2%と過去最高で伸びていて、毎年取り組みが充実しているのではないかと。 ・保護者のデータは低下する項目はほぼないが、生徒ほどの伸びではないので保護者への理解を進めることは今後の課題である。 	<p>第1回学校運営協議会 (令和元年6月17日)</p> <p>令和元年度学校経営計画 (1) 概要説明 (2) 各分野の説明 《進路指導》今春入試4年制大学進学者微減、専門学校微増。浪人増加。《生活指導》問題行動はなし。2限目以降の大幅遅刻が減少し、1年生の欠席が増加。</p> <p>(3) 協議概要 《遅刻》*遅刻が多いか。A:遅刻回数により段階的に指導。早朝登校は効果あり。当地域では少ない高校。《相談》*相談できる先生の割合が年々高くなっているのは、喜ばしい。</p> <p>《地域、防災》*地域と連携した防災計画A:子ども園との協力や防災備蓄物資の面を計画。</p> <p>第2回学校運営協議会 (令和元年11月18日)</p> <p>令和元年度学校経営計画 進捗状況</p> <p>(2) 各分野の説明 《進路指導》①英語民間資格試験見送りの発表への対応。GTECを昨年度より継続実施。私大入試に活用の可能性あり。《指導の「目線合わせ表」》①学校として指導の統一「目線合わせ表」を作成。『勉強に困ったときに読む本』を1年生版、2年生版と作成、配付。《教育課程》*44期生より教育課程の変更。2年次より文理分けを実施し、早期に文理指導を行う。《探究の時間》*令和2年度本格実施の「探究の時間」の構築中。《授業研修》①「授業研修」を実施。②今年度は「主体的・対話的で深い学び」の授業実践で教科を超えて共有。(3) 協議概要 《「書く力」》*中学生も書く力が弱い。中学時代にやっておくものは。A:「探究」をどれだけ取り組めるかが、ポイント。《教育相談》教育相談の「支援すべき生徒」にはどんなタイプ。A:例えば起立性調節障がいの子への学習面、生活面への支援。</p> <p>第3回学校運営協議会 (令和2年1月27日)</p> <p>(3) 各分野の説明 《進路指導》公募推薦入試等合格率は7.8%上昇。AOや公募推薦入試:関関同立すべてに合格者。就職:公務員で豊中市役所2名、大阪府の実習教員1名の合格。《刀根山サミット》生徒会執行部が教職員・PTA役員に要望を提出し議論。</p> <p>(4) 学校経営計画の承認</p> <p>次年度「学校経営計画案」について 「めざす学校像」、「中期的目標」の基本は同じです。すべて承認された</p>

府立刀根山高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒が夢と志を抱き、希望する進路を実現させるための進路指導の確立	(1) キャリア教育の充実と具体化 ア 3年間の進路指導計画を策定し、生徒が主体的に進路を実現するように指導	(1) ア・個別のガイダンスを展開し学年全体・学校全体で長所や課題を共有し、今後の進路指導に生かす。 ・センター試験に代わる新テストへの対応も勘案したカリキュラムの見直しを進める。	(1) ア・学習・進路指導の卒業前調査(3年生)「進路指導を通して自己変革があった」肯定的回答80%(H30度77%) ・学校教育自己診断(生徒)「学校で将来の生き方について考える機会がある」肯定的回答88%(H30度86%)	(1) ガイダンスが充実している。 ア・自己改革84%(○) ・「将来について・・・」は89.2%と伸びている。ガイダンス充実が進んだ。(○) ・入試対策は生徒への対応、保護者への説明を果たした。(○)
	(2) チャレンジする力と粘り強さの育成 ア 行きたい大学へ進学するためのガイダンス	(2) ア・入学当初に高校生活や学習法について丁寧に説明するとともに、3点(起床・自宅学習開始時刻・就寝)を自律的にチェックさせる。 ・1年時に大学訪問し、大学のイメージを具体的に示す。 ・成績及び進路に関して教科担当者による面談を実施する。	(2) ア・学校教育自己診断(生徒)「進路についての情報を提供される」肯定的回答88%(H30年度86%) ・国公立大学受験者数50人(H30度40人) ・国公立及び関西5大学への現役進学者60人(H30度52人)	(2) 意義ある進路指導である。 ア・「進路について提供される」86.3%→88.5%と伸びている。(○) ・国公立大学受験者数47人(△) ・国公立及び関西5大学現役合格者84人(△)
	(3) 「夢のとびらプロジェクト～2nd」を推進	(3) ・個別指導を強化する。	(3)・学校経営推進費により施設を設置する	(3) ・経営推進事業として認められなかったが、学校予算をやりくりして、計画の一部を進めるよう取り組んだ。(○)
2 確かな学力の育成とそのための教員の授業力の向上	(1) 学習意欲の向上 ア 必要な学力の獲得と授業第一主義の確立、そして自学自習の充実 イ 自分の意見・考えをまとめる力と自分を表現し伝える力の育成	(1) ア・模擬試験の結果を通して全国での自分の実力を認識させ効果的な学習を支援する。 ・自習室の活用を推進し、自学自習を支援する。 イ・論理的思考力・発信力・課題解決力を育成する。 ・授業の中で、ディベートやプレゼンテーションをはじめとした手法も用いて「考え、表現する力」を養成する。	(1) ア・授業アンケート「集中して授業を聞く」肯定的回答90%(H30年度88%) ・学校教育自己診断(生徒)「学校の授業は分かりやすい」肯定的回答70%(H30年度66%) イ・学校教育自己診断(生徒)「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」肯定的回答70%(H30年度65%)	(1) ア・「集中して授業を聞く」88%(△) ・「授業は分かりやすい」69%(△) ・授業アンケート結果をフィードバックして改善に努めている。 イ・「発表する機会がある」71%(○) ・『アウトプットする』をキーワードに進めている。本校生徒にとって強化するところでもあるので継続していく。
	(2) 授業改善 ア 大学入試改革へ対応するためICTを活用した効果的・効率的な授業の推進 イ 他校での先進事例の視察や、教育センター並びに教育産業等が主催する研修・講演会への参加	(2) ア・大学入試改革を把握し、変化に対応できるよう授業を改善する。 ・Webで全国の先進事例を学び、効率的に授業改善を進める。 イ・研修内容を発表する機会をつくり、共有を積極的に進める。	(2) ア・授業アンケート「授業に興味・関心」肯定的回答78%(H30年度76%) ・ICTを活用した授業の教員実施率92%(H30年度89%) イ・外部研修への参加人数5人維持	(2) ア・「授業に興味・関心」76%(△) ・教員のICT活用89%(△) イ・外部研修に参加人数5名(△) ・授業に関しては、改善を実行する意欲が不足。入試対応との兼ね合いに苦勞している。研究をする時間がないという声も多いが、その中でどう工夫するか。
3 心豊かでたくましい人間性の育成	(1) 他者理解と多様性の尊重 ア 感性に訴えるプログラムの提供 イ 各種行事への積極的な参加 ウ 国際交流による国際的な視野の育成	(1) ア・人権教育推進委員会と学年・教科が連携し、生徒が主体的に学べるような感性に訴えるプログラムを提供する。 イ・地域の団体や幼稚園、専門学校等と連携し、ボランティア活動やインターンシップ等への積極的な参加を促す。 ウ・夏季に10日間オーストラリアにて語学研修継続実施	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「学校の授業や行事で人権の大切さを学ぶ機会がある」肯定的回答77%(H30年度75%) イ・学校教育自己診断(生徒)「文化祭や体育大会は、活発で楽しい」肯定的回答85%(H30年度82%) ウ・参加者アンケートの回答「十分に満足」70%(H30年度65%) 「参加して自分が変わった」60%(H30年度50%)	(1) ア・「人権の大切さを学ぶ」82%(◎) ・各学年で生徒への講演を実施、また『人権たより』においても各学年で年間9号ずつを発行。考えさせる内容が効果的。 イ・「文化祭・体育祭は活発」86%(○) ウ・十分に満足63(△) 自分が変わった46%(△) 海外研修の課題はあるが、プログラム作成に裁量がきかない面がある。
	(2) 情報リテラシー及び情報モラルの育成 ア 生徒が加害者にも被害者にもならないための対策の実践	(2) ア・SNS等の活用について、教科「情報」の授業に加え、専門家を招聘して全生徒に講義や講演を行う。	(2) ア・専門家による講義や講演の回数 講演実施1回維持	(2) (○) ア・専門家の講義1回 ・多忙である中でなんとか設定できた。
	(3) 安心できる学校生活の確保と基本的生活習慣の定着・改善を図り規範意識向上 ア 教員の寄り添い姿勢充実により相談体制を充実 イ 基本的生活習慣の改善と定着	(3) ア・学年及び委員会など校内の組織間及び外部機関や中学校との連携を強化して、生徒情報の共有に努め、生徒支援体制の充実を図る。 ・教育相談委員会を核とし、スクールカウンセラーの指導・協力のもと、ケース会議の開催などによりメンタル面で課題を抱える生徒を支援する。 イ・遅刻数を減少	(3) ア・学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」肯定的回答70%(H30年度67%) イ・遅刻数の前年度比減少 回(H30年度:2,636回)	(3) ア「悩みや相談を聞いてくれる」70%(○) ・SCを追加で依頼し、ケース対応を充実。 イ・5回(◎) ・安心できる学校生活の構築は進んでいるとは感じている。しかし今後もまだまだ継続して注力。

府立刀根山高等学校

4 地域に開かれた学校づくりと魅力ある学校づくり	(1) 本校の教育活動の積極的な情報発信 ア・在校生（1年生）の中学校訪問 イ・HPの充実	(1) ア・在校生（1年生）による中学校訪問を実施し、生徒の成長や生の声を提供して本校の魅力を発信する。 イ・HPの更新を行い、閲覧者数を増加させる。	(1) ア・生徒（1年生）の出身中学校への訪問を80%以上（H30年度56校以上） 43期生は70中学校より入学 イ・ホームページの閲覧者数増 H30年度閲覧者67,141人→増	(1) ア・出身中学校への訪問 86%(62校)に訪問（○） イ・HP閲覧者数 回収したため測定不可 ・HPを1年かけて改修している（○）
	(2) 地域との交流・連携の推進 ア 地域の学校や保育園などとの交流・連携の推進	(2) ア・裏山等の刀根山の特徴を活かし地域連携を推進する。 ・小学生や中学生に出前授業等を実施する。 ・地域の学校や福祉施設等との連携事業及び自治会等と連携したあいさつ運動や清掃活動、防災行事などに取り組む。 ・生徒のボランティア活動をサポートする。	(2) ア・裏山の活用状況 ・出前授業などの実施 30年度:実施せず→実施 ・地域行事等への参加回数増 17回維持 ・生徒アンケート「裏山を有効に活用できた」 83%→86% 刀根山地区懇親会、刀根山こども園校外学習、吹奏楽部OBの地域向け演奏会、こども園、保育園の保育実習、蛍池公民館講座、公民館コンサート、東北ボランティアバス参加、ボランティアフェスティバル発表、刀根山校区敬老の集い、刀根山支援学校との文化祭交流、他校種交流、刀根山地区とねやまフェスタ、豊中市施策のヒアリング会議、成人式での演奏、その他多数の裏山関係企画14	(2) ア・裏山の活用状況 ・『刀根山の森を守り育てる会』を新たに発足して、地域人材の活用と活性化を図った。（○） ・農林水産大臣賞受賞（◎） ・出前授業は実施できていない（△） ・地域行事（連携）への参加 17回 昨年度参加行事本年度維持（△） ・「裏山の有効活用」（△） 事業が終了、生徒アンケート未実施のため測定不可
5 校務の効率化	(1) 校務処理システムの積極的な活用	(1) ・生徒の出席状況を日々入力し、学習状況、健康管理に関する情報を教員間で共有する。 ・業務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保する。	(1) ・ストレスチェック総合リスクを下げる。 113以下に	(1) ・ストレスチェック総合指数 113→111（○） ・内規改正等により効率化を図った。 ・夏場に空調環境で仕事ができる夏用の部屋割りを構築して工夫（○）
	(2) 時間外勤務時間の縮減と職場環境の改善	(2) ・部活動に係る活動方針を遵守し、効率的な指導を実施。	(2) ・年間活動における休養日全クラブ 105日以上休む	(2) ・全部で105日の休養日を確保（○） ・部活動の公式戦や発表をすべて視察し、生徒の様子を観察（◎）